

同様に、フキヤンパズ論については——学友諸君の志願なるはほし——未だに、それが「豊田幸徳」の「旅波をめぐる全学の状況」の「根本的解決」(一)は「改良的移取推進策動」をなし得る、殆ど唯一の「妙案」(一)「收拾案」だと「取を暗して」(一)大みえをキッただけ。本気で、という意味に「奔走」へ策動しているのが、即ち「執行部系諸君御推挙の」「民主的、良心的」教官連の最大公約数である。

われわれの斗いのホコ先を何処(誰)に向けるのか

「旅波研究学園都市計画」そのものと、そこへの「移取」ということの上に、教育大の「発展」と自己の研究にこつこのみの利益を見い出さうとしていて、同時に「執行部系諸君」に「民主的、良心的」とひいさのひさたおしをされては、そのいわける「動機」派の教官連こそ、今この時最も警戒を要する相手であり、旅波を讚美する「極楽トンボ」的推進派は、いわずもがな、われわれの当面の敵である。

学友諸君がたとえ君が入學してからゆずか8ヶ月にしかならぬ1年生ごあり、卒業をひかえているといふことで多様な血生であれ、君、身の上とその志向性において「旅波」を認め、何らかの行動へ斗争そのものの「反発」や「賛成」による「トライキ」も含めていざあつてきたとある。

学友諸君が君が二小まさいかまうに「旅波」にかかれば、たかたかともかく、今や「文部省」や「長評議会」、教授会、一体となった「学友諸君」の「策動」による「最終局面」に至らんとしている「旅波」を認められれば、反撃によって「攻め」の局面としてつくづくゆかために向かひてを共に考えようではないか。わが教育界、部斗争を望むは、評議会、教授会の「策動的」策動を撤回ハネのけることを学友諸君の前で提起したい。

学友諸君が彼らの「策動的」な意向とその策動は完全に排除されなければならない。彼らの「策動的」な意向を見抜く批判的な「眼」と思想を君自身の主体的努力において鍛え(之)かなければならない。われわれ教育界部斗争委員会は、諸君とともに、諸君の先頭になつて、旅波移取阻止の日まで奮闘して「ハ」抜くことを誓いたいと思ふ。

学生大会(11.4)決定に基き早急な中間総括の学生大会(集会)を

教斗委主催
シンポジウム
てしま

東京教育大学の
死と再生
レポーター
学生、院生、助手
各一

日時 11月20日(木)
一じ半くく四じ

場所 本館四階大会議室

形態 レポートをタタキ台としてフリーディスカッション。

参考資料

東大斗争の渦中であつて、既存の大学とりわけその管理「体制」あるいは「自治」体制への一定の内面的批判を試みた「原」にロソ氏の論文「東京大学の死と再生」をもとめてしをとりあげる。現在、教斗委において、コピーを作成中につき、原価にて頒賦する予定。

破壊的な教授会種族メンバーを除く、全ての

学友諸君ならびに助手の各氏の結集を時どかけたい。

特殊教育課程1年生諸君へ

諸君、前号の「旅波」において、主として「執行部系諸君」のインテアで止められようとしていた、諸君の「自主」性について批判的な視察から「教」の「視」を、教斗委の責任において掲載したことを覚えておられるだろう。再漫、教斗委において検討した結果をお知らせする。その、基本的見解は、先の号で述べたとおりである。しかしながら改めて諸君に対して平直に申し上げたいことがある。それは、われわれが諸君の取り組む人々の情熱と原初的なながらも「マ」メあげようとしている「問題意識」を貴重なものだと考へてはいることだ。そして、そうした教斗委の姿勢をも具体的文章表現において質くべきであつた、と自己批判する。今後とも友好的な討論をつみ積んでいきたい。